



(607号付録)
 京都版 第464号
 2025年2月15日
 治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟
 京都府本部
 〒604-8832 京都市中京区
 壬生下溝町51-41
 TEL: 075-312-8787
 FAX: 075-325-3863
 E-mail
 Info@kokubai-kyoto.com
 ホームページ
 https://kokubai-kyoto.com

京都治安維持法研究会
 「執筆者座談会」開かれる

国賠同盟京都府本部は、治安維持法公布100周年事業として京都関連の犠牲者名簿(本冊)と京都関連の主な事件史(別冊)の9月発行に向けて、執筆者による「座談会」が2月1日にラポールル京都で開かれました。

当日、井口和起(府立大名誉教授)・岡田知弘(京大名誉教授)・勝村誠(立命館大教授)・本庄豊(近現代史研究者・歴教協)の各氏に加え、本会の原田



岡田知弘氏 井口和起氏 原田完会長

会長・佐藤副会長・藪田事務局長(司会)が参加しました。冒頭、原田会長による「開会のあいさつ」の中で100周年

事業の取り組みの目的と、9月に国賠同盟近畿ブロック交流会が開催される旨が報告されました。発言は、事件史の流れに沿って、出席の各先生から行われました。

岡田先生から「京大連事件」と「京大・滝川事件」について執筆に至る経緯として「京大経済学部」の編さんとの関わりを通じて、「大学の自治」問題なども紹介されました。

本庄先生からは1935年の「天皇機関説」弾圧から「国体明徴運動」が盛んになり、国体論を補強するため新興宗教の弾圧が強まり「第二次大本教弾圧事件」は忘れてはならない、との指摘がありました。

井口和起先生は「世界文化」・「隔週刊紙土曜日」「学生評論」などへの言論弾圧が「滝川事件」

に関わった人々の学外での巧妙な言論活動を試みたものと積極的な評価を解明しました。

勝村先生からは作家・中西伊之助やタカラ・テルが、人民戦線論から戦後の共産党に合流し、共産党から立って国会議員になり、また共産党再建運動としてでっち上げられた「横浜事件」の細川嘉六が共産党に入党し国会議員になるなど、反戦反ファッショの戦いが伏流水となっていたことを指摘しました。



本庄豊氏 勝村誠氏

1945年8月の敗戦後、治安維持法が10月に廃止になり、

占領軍による押し付け憲法で上から与えられた民主主義に過ぎないときめつける「安倍流の恥ずかしい憲法」論者がいる一方、治安機構の解体で自由な言論が開花し「天皇主権」から国民主権に確実に変わりました。

京都学連事件の関係者・鈴木安蔵も『日本国憲法』の間接的起草者といわれています。

治安機構に虐殺されたり、学校から放校処分されたり、会社を首になったり、アカのレッテルで差別されたりした人々の「名誉回復・顕彰」が民主主義を根づかせる上で出版が本当に急がれますね、との佐藤副会長の発言をまとめに座談会を締めくくりました。



京丹後支部

「新春の集い」に参加して
府本部会長 原田 完

「新春の集い」開催で

署名目標達成の意思統一

京丹後支部の「新春の集い」が1月25日、丹後民主商工会事務所のホールで約200人の参加で開催されました。

森副支部長の開会のあいさつで始まり、共産党丹後地区委員会田中委員長、国賠府本部からは、原田会長の二人が来賓挨拶をしました。

森副支部長からは、支部の活動の状況や会員の現状について報告されました。

署名活動では、昨年の役員会で確認した「国会請願署名2000筆の目標」が今日結集された署名を含め現在、800筆を

超え、治安維持法施行100年の年として京都府本部の5000筆の目標を支えるためにも、今年は何としても京丹後支部の目標達成をしようと呼びかけられました。

森副支部長から治安維持法について発言を求められました。

治安維持法施行100年の年として、京都本部では、治安維持法犠牲者名簿の出版事業に組んでいる現状を報告しました。京都関連の治安維持法犠牲者が現在、判明しているだけで千人を超えていることや、大本教関係者が多くおられることが明らかになったことなどを最初に報告しました。

今、自民党政府は戦争する国づくりに前のめりになっており、戦争法の強行や共謀罪、盗聴法、秘密保護法、さらに経済秘密保

護法と国民弾圧の新たな動きが強まってきている。

あの治安維持法制定前後の事態を彷彿させる状況が起きている危険性を明らかにし、警視庁公安部が大川原化工機の外為法違反のでっち上げ事件や岐阜の大垣署の市民運動を監視して、企業に情報提供するなど、警察権力の暴走は現代の治安維持法と言えるような危険な動きが起きています。

あの戦前の治安維持法と同じように戦争への道を突き進むようにする時と同じような動きであることを報告し、私たち国賠同盟の運動は大きな役割を持っていると強調しました。

猛威を振るった治安維持法では、京都が国内の治安維持法で最初の逮捕投獄の第1号の事件、京大や同志社の社研を狙い撃ちした学連事件であり、河上肇教授の京大追放攻撃でありました。

宗教弾圧の最初の事件が大本教弾圧と、京都は学連事件と同じように最初の宗教弾圧が行われました。

治安維持法は当初共産主義者やロシア革命後の影響を恐れ学連事件以後、大学の教授や研究者、学生や労働者・労働争議の弾圧が横行しました。

労働者では国領五一郎や谷口善太郎など共産党結成に加わった先進的な人がいました。

もともと、治安維持法の施行前から特別警察を全国に張り巡らし、関東大震災の救援で奮闘していた共産党や共産主義青年同盟(共青)、南葛の労働者を不当に逮捕弾圧し、軍隊が惨殺する亀戸事件が起きていました。

この時には、朝鮮人が暴動を起こしているー井戸に毒を投げ入れているーなどのデマを警察や軍隊から流して自警団を組織させて、朝鮮人や中国人を集団

リンチや惨殺が行われる事態になりました。

戦争推進に国民を動員するうえで治安維持法制定前から国民弾圧体制が強化されていきました。

より強力な国民弾圧、国民的要求運動を封殺するために1925年に治安維持法が制定施行され、28年には最高刑を死刑まで改悪し、内心を犯罪とする事で天皇制の絶対化と国民的運動への弾圧が強行されました。

内心を犯罪化するためには、自白させるため非人道的な拷問が行われ、小林多喜二の拷問虐殺などが平然と行われていました。

私事にはなりますが、私の母親も治安維持法犠牲者で、19歳の若さで4回逮捕拷問を受けました。

そのひどさは肉体的苦痛を与える拷問、人権、人格、人間性否定の女性の性的辱め性暴力、精

神的拷問でした。ある時には、別の治安維持法で逮捕した労働者を引き出し、母の名前を言わせ、母が黙秘を続けている事で、労働者にお前の調書は嘘なのかと拷問を続け、黙秘していること

とで耐えられない精神的苦痛を与えらるという非人道的拷問が行われていました。

治安維持法の異様な違法、無法な事態などを報告し、100年を迎える運動の前進を訴えました。

また、今年の秋には国賠同盟近畿ブロック交流会が、京都で開催されます。

100年という意義ある年にふさわしい企画の一端として、映画「小林多喜二」上映とジャーナリスト青木理氏、治安維持法研究者で国賠同盟中央本部顧問の荻野富士夫氏の講演などを計画していることなども報告し

ました。

第2部で参加者全員が、国賠同盟への思いや現状の問題点など発言をし、たいへん有意義な新春の集いでした。

京都で今秋に開催 — 近畿ブロック交流集会—

日時：2025年9月27日(土)～28日(日)

会場：準備中

企画：映画「小林多喜二」上映(予定)

講演 青木理氏(ジャーナリスト)

荻野富士夫氏(国賠同盟中央本部顧問)

※自由法曹団、国民救援会、国賠同盟の3団体で企画中(決まり次第、お知らせします)

支部便り

京丹後支部

副支部長 森 勝

今年には治安維持法公布100年であり、再び戦争と暗黒政治を許さない」は他の団体でも掲げて運動をしています。が、「治安維持法犠牲者への謝罪と賠償を求めているのは」国賠同盟だけであり、同盟活動の意義・重要性を訴え、確信をもって署名運動などを進める意思統一ができる「新春のつどい」にしたいの思いで開催しました。

「つどい」では、共産党丹後地区の田中邦生委員長の来賓挨拶、原田 完府本部会長の出席を頂き、「拷問の醜さ、京都での犠牲者名簿づくり、近畿ブロック会議の計画等に加えて中央や府本

部の方針を柱にした活動で掲げている署名目標の推進など京都の先進的な活動を京丹後支部に期待しますとの挨拶をしていただきました。

参加者は約20人でしたが、活動の交流では署名の訴えに対して「日本の軍事化に心配している人が多く、心良く署名してくれた経験などが報告され」全員が発言し新年の決意を述べ、良い「つどい」になりました。

1月11日に臨時の支部委員会開催で意思統一したこともあり、署名については、当日持参した署名を集約し、さらに、民商や生健会の確定申告書作成会会場での訴えが行われており、取組み状況を集約した結果、約800筆に到達していることが確認されました。昨年の2倍以上のテンポですがまだ目標の40%であり、5月の国会提出までに目標の2,000筆をめざそう

と意思統一しました。

倉岡愛穂墓前祭実行委員会を2月23日(日)に開催し、没後88年を迎える命日の4月9日(第17回墓前祭)に実施することを提案する準備をしています。

宇治洛南支部

支部長 山崎 恭一

節目の年にふさわしい活動を

2月の理事会を1日に開きました。新しい理事も参加して、治安維持法100年目の節目の年にふさわしい規模の運動にしようと話し合いました。

前日には宇治市の労組・市民団体に署名への協力要請に行きました。100年目の年なんだという、署名を40枚ほど預かってくれたり、分会にも下ろすと言ってくれたりしました。

さらに城陽市、八幡市、京田辺市などの団体にも協力要請に行くことにしました。共産党の洛南と山城のふたつの地区委員会にも、あらためて署名への協力をきちんと申し入れをすること、3月の山宣墓前祭の参加者にも署名用紙を配ることなどの段取りをつけました。

京田辺の理事から、清水寺の宣伝だけでなく、南部でも宣伝をしようという提案があり、近鉄の大久保駅と新田辺駅で宣伝しよう、のぼりや横断幕の手配を確認し、3月・4月に実施することになりました。

テキストの学習・普及もすすめ、署名目標500達成を視野に入れた活動を進めていきます。